

令和5年度 第2回伊勢市環境審議会 記録概要

1. 日 時 令和6年3月15日（金） 16:00～18:00
2. 場 所 伊勢市役所 本庁舎東館 5-3会議室
3. 委 員 福村 伝史 （公共の団体：伊勢商工会議所）
河井 英利 （公共の団体：伊勢農業協同組合）
杉田 英男 （公共の団体：伊勢湾漁業協同組合）
杉山 謙三 （公共の団体：伊勢市総連合自治会）
竜田 和代 （公共の団体：伊勢市女性団体連絡協議会）
高橋 克彦 （公共の団体：伊勢市環境会議）
勝又 ひとみ （公共の団体：伊勢小俣町商工会）
中村 佳子 （公共の団体：伊勢市観光協会）
山村 直紀 （学識者：三重大学）
中松 豊 （学識者：皇學館大学）
松永 彦次 （神宮司廳）
奥田 哲也 （三重県南勢志摩地域活性化局）
上野 早苗 （公募）
岡本 忠佳 （公募）
田岡 光生 （公募）
【欠席】
平山 大輔 （学識者：三重大学）
岡野 直高 （中部電力パワーグリッド株式会社）
作田 久 （三重交通株式会社）

事務局 大桑 和秀 （環境生活部 部長）
山本 佳典 （環境課 課長）
角谷 晃 （環境課 主幹）
西井 有希 （環境課温暖化防止推進係主事）
村田 雄紀 （環境課温暖化防止推進係）
林 歩 （ごみ減量課 課長）
野中 孝彦 （農林水産課 課長）
徳田 光良 （農林水産課 副参事）

4. 概要

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 議事

① 第3期伊勢市環境基本計画の中間見直しに係る市民等の意識調査の結果について

○事務局による説明

- ・ 資料1-1から資料1-6に基づき、第3期伊勢市環境基本計画の中間見直しに係る市民等の意識調査の結果について説明

○質問・意見等

- ・ 私は漁業組合なので、海や川や、水質保全などを気にするが、もっと情報提供をしてもらいたかったというところがある。特に、皆さんはよくご存じのとおり、今は海に行っても貝が採れない。アサリ貝がない。伊勢市が何をやっても賄えるようなものではなく、国がやらないといけない事が多い世界のことだけでも。ただ、きれいな水を海に流せと言われると、それは栄養のない水である。「きれい」ではなくて、ここには「豊かな水」といったような表現が欲しかったと思う。このような川や海の水質保全の認知度は随分高いので喜ばしいが、そういう点で、もっと内容のある、深みのあるものが欲しかったという気持ちがある。

⇒このアンケートは項目も多く、見る人やタイミングによっても傾向が変わってくると認識している。できれば、それぞれの項目のところに、例えば、今の話だと、直近の海の状況のような解説なども入れながら、させていただきたいと思いながらも、前回と同じような聞き方でないと比較しにくいといったところもあり、今回はこのようにさせていただいた。10年計画の中間年ということで、同じような聞き方をさせていただいたが、ちょうど節目の5年に1回アンケートを取っているので、次回はそのような一定の解説も入れながらできるように考えたいと思う。【事務局】

- ・ 資料1-5の学生アンケートの集計結果の11ページ、問11の結果を見て、現状は残念だと感じた。学生の中で、「活動の情報が得られない」、「参加する手順が分からない」、「気持ちがあってもそれを実践できる場所がない」ということがすごく見えているので。市から、環境の情報をできるだけ幅広い世代に、分かりやすく情報発信できるような取組をしていただければ、これまで以上に若い世代の参加が可能になる。期待が高まるような結果ではないかと思うので、どうかお願いしたい。

⇒私共もここは課題だと思っており、活動する時間がないとは言え、大事なことは取り組みやすい形というものがあると思っている。一方で、「社交が苦手だから」というのも一定割合あるということで、いかに取り組みやすい形を確保していくか。具体的に今、どうかということはあるが、SNSなども形として変わってくると思うので、次回に生かしたいと思う。【事務局】

• 資料1-3の11ページの17番、障がい者・子育てにやさしいまち。一般市民のアンケートでは高いが、学生アンケートでは非常に低い。これからは、どちらかという高齢化社会で、今までのような生産者人口ではなく、まだ20年ぐらいは高齢者が多い。どういった形で人口が減ってくるにしても、それを緩やかにするという、高齢者にやさしいまちづくりは、やはりキーポイントになるという気がする。その辺をどのように言い、活かしていくか。特に、先生方がたくさんいらっしゃるから、学校とも連携をしながら教育ができていくか。これがお願いしたい1点。

もう1点は、今後取り組みたい活動状況や、いろんなことを見ているが、どうしても環境の学習とか哲学的なもの、大きな視点しか書いてない。もう少し進めようと思ったら、市民に巻き込むとか、具体的な策、そこがアンケートの中でなかなか出てきていない。一方、こちらのアンケートの中では、エコカーとか再生といろいろ言っているが、今度の時には、もう少し身近なものを入れてもらいたい。この2点だけお願いしたい。

⇒学生のところで高齢者・子育ての設問の辺りが低いというのは、如実に生活環境自体を反映しているのだと思う。大人に聞くのと同じ設問をしているが、学校の中で、そういった教育を進めていければ良いと思う。また、意見の聞き方についても、LINEアンケートの形をとると、費用は全然掛からない。登録されている方の細分化が出来てくれば、さらに細かく聞くことができるかと思うので、ご意見を踏まえて次回に検討したいと思う。【事務局】

⇒なぜ、そういう質問をしたかという、少し大きな話をすると、ご存じのように、限界集落で、いわゆる何十年先、50年先に無くなるという所で、人口が増えている所は、やはり子育てに力を入れている。

具体的に言うと、子どもが3人いようが保育所を全部無料化している。あるいは、高校の授業料をただにしているとか、やはり新しい取組をしている。本来ならば限界集落で落ちていく所が、むしろ人口が増えているというのは、子育て。それで、なぜ学生と言うかという、自分たちが将来、子育ての段階に入るから、今の段階から、市が、学生あるいは教育者を含めて巻き込んでいただくとうれしい。

⇒これは、伊勢市に住んでいる学生にアンケートをしたわけではなく、むしろ、伊勢市に住んでいる学生はそれほどいないので、生活感というか、自分が住ん

でいるという感覚なしに、たぶん伊勢市のことを語っている。自分の住んでいる所ということで話をすれば、もう少し意識が強い形で出てくるのではないかと思う。だから、伊勢市だけを抽出できれば、少し違う形にはなるかと思う。あまり自分の身に詰まるような話ではないという感覚で、たぶん答えている学生が多いと思う。

- アンケートの結果、実際、伊勢市の重点的な施策があると思うが、それであるとか、コメントがあったと思うが、これでどのように変化をしたか、もしくは、こういった分野で、こういったことを増やすであったり、何か施策に影響されるものがもしあれば、教えていただきたい。

⇒今、即答ではっきりしたことは言えない部分もあるが、このアンケート自体が5年に1回の見直しの前にさせていただいている。まず、環境基本計画にどこまで書けるのか。例えば、太陽光発電は100%にすれば良い。これは、今の時点では流れには乗っているものの、あと5年でやり切るのは難しい。そのような温度感を掴むところと、あと、新たなニーズということでお聞きしているところ。来年度、どこまで書けるのかということもあり、自由意見をたくさん書いていただいているが、それも振り返りながら、できるだけ再生可能エネルギーとか、そういったところの書き込みがより具体化できるように考えたいと思う。今、どこを変えるというところまでは言えないが、そのように考えている。【事務局】

② 伊勢市の温室効果ガス排出量等の現状と将来推計について

○事務局による説明

- 資料2に基づき、伊勢市の温室効果ガス排出量等の現状と将来推計について説明

○質問・意見等

- 何トンという数字が大きいが、実際、目で見たらどのようなものか。空想の世界なので、そこを理解するような表現でないと、考え方も出てこないのではないかと思う。

⇒ごもっともなご質問で、私たちもそこは悩みのところ。二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、これらは端的に言ってしまうと、ガソリンと電気をどれだけ減らすかということである。その集計が取れるかどうかということもあるので、少し検討させていただきたいが、例えば、市内は難しいかと思うが、ガソリンの使用量とか、電気の使用量とかを環境基本計画に落とし込めるなら落とし込むとか、別の資料で出させていただくとか、それで、いくつかの数字的などころは出せるのかなと思っている。

少し別の話だが、環境フェアで、中部電力が、CO₂はこんなものだと言っ

て、ものすごい大きなバルーンを見せていただいた。1キログラムだけど、かなり大きく高さ5メートルぐらいのものを。そういった可視化は、やはりイベントでないと示せないところがあるので、企業のご協力をいただきながら、実感していただけるようなイベントや啓発など、環境基本計画の中にできるだけ身近な例を挙げたいと思う。【事務局】

⇒お願いしたい。ホームページでそのようなものを出せば、みんな分かると思う。

⇒写真があるが、1日1人当たりが出すCO₂は6キログラム。それはどんなものかという、人が3人並んだ幅で、高さが大体2倍近くある。それをどのように使えば良いのか分からないが、何らかの方法で、市のホームページなどで表示してもらえると良いかを感じる。

- 今の説明で、4番の現状から、将来推計は難しいだろうと思うが、もう少し具体的に言うと、例えば電気自動車一つを例にとると、自治体によって補助金が全然違う。国は一緒だ。今、普通の大きさだと55万円で、財政が豊かなところであれば、50万円とか100万円ぐらいある。我々も本当は変えたいけれどなかなか変えられない。可視化という話で、例えば、市役所が今、何百台持っているものが、電気自動車に変えるとどれぐらいになるとか、具体的に何年計画でやっていくところなる、というように、我々にとって分かりやすいと、より馴染みやすいと思うので、何か具体的なもの、知恵があったら、それを入れて欲しい。

- 資料を一通り見せていただいた時に、伊勢市の排出量があり、それに対してそれぞれの事業部門のガスの算定値がある。その中で森林の算定率がある。伊勢市は、たぶん7割～8割ぐらいが山林になるかと思うが、その中で1.7%しか吸収率がないということは、今までの活動の中で、植樹とか、そういうものに力を入れてきたりしたが、それが無意味とは言わないが、カーボンニュートラルを進める上で、例えば、そういった吸収量を増やすという意味では、そこにお金を掛けて力を入れても無意味ということなのか。無意味とは言わないが、それが数字的に見たときに小さい。だけれど、やはり植樹をしたり、例えば木を伐採した後、木を植えたりとかをすることによっても、それを何回やったって、結局1.7%が2%になるということは、いろんなところの二酸化炭素の排出量を減らした方が、そちらの方にお金を掛けた方が、効果が上がるという理解で良いか。

⇒先程、電気自動車の話もあったし、実は今日、庁内で公用車の話をしていて、分かりやすいところで電気自動車であったり、あと、植樹も数字としては少なくとも、やはり皆さんがそこへ向いてもらいやすいということはある。アンケートの話でもあったが、学生も緑化については興味がある。でも、大気汚染のことは興味がない。こういった、興味が向くところがあるので、例えば、森林関係のイベントなどはそのまま続くと思うが、どのようにしてやって来る

のか。公共交通機関であったり、車を使わなかったり。こういうようなやり方も工夫しながら、広めていければと考えている。【事務局】

⇒森林の話が出たので補足すると、森林の二酸化炭素の吸収量だが、光合成をして木がどんどん太っていき、太った分だけ木の中に炭素が吸収されて、固定されるので、そういう意味では、木を植樹して太っていく間は吸収量が多い。

ある程度、木が太って、それ以上あまり成長しなくなると吸収量も減るので、そういう意味で、今、「木を植えましょう」ということと併せて「木を使いましょう」ということで、木が太ったら利用して、また新しい苗木を植えて、ということが吸収量には回転がいいし、蓄積となる。それで、そういう木造住宅を増やしましょうということで、今、大型の木造建築物とかは増えてきている。

木造建築自体が、最終的に木を廃棄して燃やさない限りは、その中に、二酸化炭素を閉じ込めているということになっている。それも貢献をしているという話で、そういう木造建築物は第2の森林だと言われる。そういう意味で、先程言われたように、数字的には全体の排出量と比べると何%だけけれども、木を植えて、木を使って、ということ自体は、二酸化炭素の吸収には役立って効果がある。それ以外の、環境的なカーボンと関係ない世界でもやはり、いろいろ森林の効能はあるということで考えている。

⇒カーボンニュートラルということは、排出量と吸収量をゼロにするという意味合いになったときに、どうしても効率的にものを考えたときに、皆さんのそのような活動をされたときに、方針だけを見ると矛盾しているのかなという、やることが悪いとか良いとかは別の問題で、やり方というのは、違うやり方があるのかなと感じた。

数字はやっぱり嘘を付かないので、感想として。数字を自分の中で分析した時に、間違っているのかな、どうなのかな、というところをお聞きしたかった。

- 考え方としては、伊勢市だけというか、日本の中でここだけを抜粋して、そこだけの環境を見るとそうかもしれないのだけれど、日本全体を見るとか、地球全体を見ると、たったそれだけの数字がものすごく大きな数字になる。それで、地球全体がバランスを取っているのは確かなので、局所的に見て、こちらが多いとか、少ないとかというところで判断してはいけないと思う。狭い所で、産業が盛んで、あまり木が生えていないということで、全然役に立たないのではないかということではなく、地球全体の営みとしては、少しずつそういう所にも木を植えていくと、地球全体の収支を考えると、良いようになるのかなというように、生態系としては捉えていかなければいけないと思う。

- 地球全体の環境の話もあるが、伊勢市がカーボンニュートラル宣言をしているわけだから、伊勢市がどうだろう、というところが重要であると思っている。確認したいが、今ある森林のうち人工林はどれくらいあるか。

⇒伊勢市の面積が20,835haで、約半分が森林となっている。人工林率だが、その半分が人工林、また半分が天然林。森林の面積が10,956haあり、そのうち5,828haが人工林。人工林率としては53%となっている。【事務局】

⇒大体半分ということだが、その半分に関しては、木が売れるかどうかで、売れば、どんどん植林をして入れ変えていくことで炭素の吸収量を上げられる。

多分、この計算はかなり年期の入った人工林で計算されていると思う。皆さんご存じのように、今、日本の木はほとんど売れていない。最近、若干盛り返しつつあるが、やはり、日本の木は今まで全然売れてこなかったのも、ほとんどが老齢化している木。そこをなんとか、市が清掃して行って、どんどん切って何かに使っていきけるような、そういう形で植林を進めていくことが一つの良い方法なのかなと捉えている。

また、5ページの表のエネルギー起源CO₂の算定方法について。この算定方法では、県のCO₂を按分するというやり方をしてもらっていると思うが、このやり方で一番CO₂を減らそうと思ったら、どうすればいいかと言ったら、人口を減らして、産業を無くせばいいということになる。按分なので。それは少しあり得ない話。例えば、伊勢市が頑張ってCO₂を減らすと、その努力がどこに出てくるかという、県全体で薄まってしまう。県全体の統計を按分しているから、伊勢市が一生懸命頑張っても、結局、県で平均化されてしまう。そうすると、やっている側としては、すごく虚しいというか、努力があまり見えてこないということになってしまうと思う。これは一般的な算定方法なので、これを変えることはできないと思うが、何らかの形で、伊勢市が一生懸命頑張っているということを示す指標を作れないかな、ということはお願いできるかと思う。

⇒言われるとおり、今、排出量を把握できる手法が、自治体レベルでしようと思うと、このような統計データを元に算出するという方法になる。今回、このような形で算出したが、これを一つの基準値として、2050年カーボンニュートラルを目指して、これだけ減らさなければならぬからエネルギー使用量をどれだけ減らそうとか、電気自動車をどれだけ増やそうとか、再生可能エネルギーを何キロワットにしようとか、そういった具体的な目標を定めるときの参考にする数値になるかと思う。今後、どのような指標で管理していくかについては、来年の環境基本計画の策定の中で検討していくことになるかと思うが、考えられるのは、市内で家庭系・事業所系すべて含めて、電気が何キロワットぐらい使われたかというところを把握したり、再生可能エネルギーの普及であれば、経済産業省が認定した容量は、今、伊勢市で10万キロワットぐらいの出力が認定されているが、そういった出力をさらに上げていこうとか、そういったいろんなデータを持ってきて、目標数値を掲げながら、今後、目標年次に向けて管理していくことができればと思っている。具体的には、今後、計画を見直

す際に、どのような指標が良いかということ、またご提案させていただけたらと思う。【事務局】

⇒先程の話で、古い木材を切って、それを利用して、新しく植えていく、という考え方なのかどうか分からないが、先日、三重県から大学に「芝刈体験をしませんか、木を伐採する体験をしませんか」と、理系の研究室はうちだけなので、うちの研究室に来られた。学生が参加して、芝刈機で下草を刈ったり、木を伐採する研究をしようと。だから、県としても森林に目を向ける、若い人に目を向けてもらう、という取組を始めているのかなと思った。なので、まさに先程言われたように、木を伐採して、その木を利用するような循環型の森林管理のようなものを進めているのかなと思った。そういうことを視野に入れてやっている、三重県で取り組んでいる、ということで、伊勢市もそれがあるところで出来れば良い形になると思う。

⇒伊勢市の森林の2分の1は、神宮が所有している森林。その神宮が所有している森林のうち、人工林と天然林は半々ぐらいだが、そのうちの人工林については、基本的に式年遷宮に使うヒノキを育てるという目的があるので、通常の間伐だと100年経たないうちに切ると思うが、遷宮に使う木材、大径の太い木が必要だから、今、計画では200年～300年経たないと切らない。その間、間伐はどんどんしていくので、間伐材は今でも出てくるし、これからも出てくるが、短期間で循環させる人工林というよりは、非常に長期間かけて循環させていくという計画でさせていただいている。そこは、伊勢市の吸収量には協力にならないかと思う。

- 資料1-3の21ページに、自然保護のことが書いてある。これは多分、今のことと少し関係があるかと思う。いわゆる、自然環境のことが大きいということで、市の環境に関わって、整備をしてほしいという要望が出してある。自然を守っていくということも書いてある。環境整備ということで、こういうところが実際にあるということ自体に目を向けて、市民の声に応えていくようなことが出来たらいいのかなと思う。

- 以前、何年か前は、プラスチック容器のようなものは普通にごみに出していた。今は、ステーションでもかなりの量が出されている。数年前と比べ、焼却場で燃やされるごみの量とか、そういうものの比較をした数字などはあるのか知りたい。

⇒今、手元に数値がないが、プラスチックに関して、容器包装は今までも分別させてもらっている。また、この4月からになるが、プラスチック製品ということで回収していく。伊勢市においても、資源物に関しては、皆様のご協力・ご理解もあり、資源量は増えてきている。それに伴って、ごみの減量も、ごみ処理基本計画の目標値には、まだひと踏ん張り、ふた踏ん張りというところで

はあるが、緩やかに減少につながっているところ。【事務局】

⇒そのようなものが、もう少し見えやすく、子どもたちも分かるような形で、自分たちがしていることの結果というものを見せていただけるようなことができる、各家庭も、もっと意識的に出来やすいかなと思う。3月11日、東日本大震災の13年目。その時に生まれた子どもが、中学校に入るぐらいになってきたけれど、その時点でまた、今回、大きな災害があったので、何かそういうのを見ると、やはり意識をずっと持ち続けることは大事だと思うし、何か結果が見える形で教えてもらえると良い。あの頃も、各企業が節電をするよりも、各家庭がした方が、効果が大きいと言われていた。それと同じかなと思う。それを続けていく、継続するということが、すごく大事なかなと思う。先程も言われていたが、200年、300年先を見据えて木を育てているという。例えば、庭で木を一つ植えたらどうかと言ったら、それ1本は言うほど効果がないけれど、各家庭で1本ずつ植えたらどうか、それが大きな動きになるというお話を聞いたとき、何か、見える化をしてもらって、各家庭で出しているごみに少し気を付けてもらえると、これぐらいエネルギーが違ってくるよというような、ガス排出量にしろ、何にしろ、全然違ってくるよということを見せてもらえると良いのかなと思った。

⇒今後、参考にさせていただきながら、言われたとおり、見える化ということで、何百トン減ったと言っても漠然としている数字だと思う。例えば、一人当たりにしたら、板チョコ1枚が減る努力だけで良いとか、そういった見えやすいような工夫には、これから情報発信について気を付けてやっていきたいと思う。【事務局】

- 私共の組合では、20年ぐらい毎年、植樹にずっと行っている。山へ植樹しに行くのは、ほとんどが広葉樹である。広葉樹が格好もいいし、見栄えもいいし、落ち葉が海に対して栄養があるということをするが、今考えたら、北海道では松などを植樹して、海を良くしたということもある。そのような中で、資料2の数値を見ると、スギやヒノキの方が、随分、吸収率が良いように見えるが、これはどういうことかなと考えている。この数字は本当なのか。

⇒スギ・ヒノキの方が、広葉樹よりも成長、太っていくのが早い。成長だけの量で、数字で見ると、スギ・ヒノキの方が大きいということになる。ただ、岩手かどこかでは、「森は海の恋人」といったようなキャッチフレーズで、漁業関係者の方が山に木を植えるということをやられている。広葉樹の方がいろいろな養分が海に流れて行って、川と海の接点になる辺りの海辺の栄養が良くなって、貝とかを含めて、いろいろな漁獲量が増えるとか、そのような話は聞いたことがある。吸収量だけを言うと針葉樹だが、漁業関係者の方が植えるのは広葉樹とかの森の方が良いかもしれない。

- 先程、ごみのことが話題になっていたが、伊勢市環境会議が、伊勢市内各地の保育園や幼稚園へ出前講座に行っている。環境紙芝居をやって、その後、ごみの分別クイズをやって、結構盛り上がる。それと、ごみ減量課から持ってきたごみを、子どもたちに「これはどこへ入れるのか？」と袋に入れてもらう。結構盛り上がって、そういうときに、やはり、小さい頃からお子さんたちに体験していただくことによって、当然、お家に帰ってからも、お父さん・お母さんと話をする。地道な努力を私たちはやっている。皆さん、覚えておいていただきたい。年間で結構な所に行っている。新たに、エプロンシアターといって、エプロンをかけて、SDGsについて知っていただくということも始めようとしている。そういう活動をしているので、ぜひ、お願いしたい。

- 先程、お話があったプラスチック製容器包装のところで、報告が遅くなったが、令和4年度・令和3年度の比較になるが、4年度が1,128トンということで17トン減ってきている。資源物全体では、容器包装も含め、紙とか、そういった資源全般ですが、これが4年度だと5,680トンということで、これも360トンほど前年度から減っているような状況。資源の量は減ったという話になるが、燃えるごみに関しても、令和3年度・令和4年度の比較で、470トン減量になっているので、その分、やはり、資源は資源で分別に貢献しているのかなというように思っている。また、これは市が回収した量だけになってくるが、最近では、スーパーや小売店の方でも、分別回収ということで、店頭にボックスのようなものを用意してもらっている。市内のそういった所を含めると、もっと全般的に資源物自体は増えているかと思う。【事務局】

- 自分の経験談で、今、困っている事だが、CO₂の関係で自宅にソーラーパネルを付けて、そして、軽の電気自動車を購入したが、まだつながっていない。電気自動車を充電するに当たって、充電器が市内に少ないということに数か月悩んでいる。私たちも実際に自分たちが買って、入れなければいけないというので初めて知ったわけだが、自動車販売店には充電器があるが、それを利用するにはクレジットカードで毎回の会費を払って、そしてまた充電する時にお金が必要。そういうことが全くないのは、イオンにWAONで充電できる箇所がある。でも、それだけしかなく、それが、急速充電が2件とも故障していた時があってすごく困った。市役所にも充電器があるが、裏の方なので、初めは全然知らず、伺って初めて、あるのに気が付いたというところ。利用するに当たっての利便性が、今現在の環境では全くないというところがある。やはり、いくら導入しようと思っても、自宅で充電できたらそれで良いのだが、そういうのではなく、伊勢イオンなどで観光ナンバーが充電器に入っていたことがあるが、観光客が来てこちらで充電する時に、調べてみえる方は、そうやって充電できることもあるが、やはり観光客が多い伊勢としては、市内全般的な所に、気軽に現金なり、普通に登録していないクレジットカードなりが使えるような充電器の配備がないと、一般の市

民には普及しないのではないかと感じている。そのような整備も合わせて、市のカーボンニュートラルに向けての政策の一つとして、すごく費用が掛かると思うが、努力していただければ、みんなが助かるというか、これから電気自動車を買ってみようかという気持ちにもなると思う。

⇒市内の充電設備がどういう所にあるのかを経年的に調べているが、先程言われたように、自動車のディーラーに多いということで、広く使われるような所がなかなかないということが課題としてある。電気自動車が出始めて約10年経ってきた。報道等でも言われているが、当時、電気自動車がこれから増えるだろうということで、充電設備を設置したような所が、10年経ってきて故障をするようになってきて、廃止するという選択をする所もあるようだ。これは、この10年間で電気自動車がなかなか普及してこなかったというところで、そのような現状もある。電気自動車が先なのか、充電器が先なのかというような議論もあるが、今後、2035年には、新車販売はハイブリッド車も含めて全て電動化するということが国の方針で掲げられているので、今後、こういった充電設備の充実も必要になってくるかと思う。町乗りで日常的に乗る場合だと、基本的にはご自宅で充電をされる。朝起きて、出る時には満タンになっているところが考え方だと思うが、言われるように、今後は、観光客の方が遠方からお見えになって、そこで充電先を探すというようなことが出てくることもあるのかなと思う。そういったことも含め、今後、こういった所に設備を置いていくのが良いかなども含めて考えていけたらと思う。【事務局】

(4) その他

○事務局による説明

- 資料3に基づき、第3期伊勢市環境基本計画改定スケジュール案について説明

○質問・意見等

- なし